

保育士養成校における幼児体育指導に関する実践報告

—身体表現における社会人基礎力の育成について—

Practical Report on Physical Education Guidance for Infants at Training Schools for Nursery-school Teachers

—How to Foster Basic Physical Expression Skills for Working Adults —

伊藤 照美 Terumi Ito

(愛知学泉短期大学幼児教育学科)

抄 録

保育者に求められる資質には保育の基本的な知識や子どもと関わる技術が挙げられる。特に子どもの発達や保育に関わるスキルを磨くことが必要とされる。保育のスキルとは音楽や工作、言語表現、身体表現など一通りを身に付けることが重要である。本学の幼児と健康Ⅱの授業では、身体表現あそびを通して、身体活動に必要なタイミングやバランス感覚を体得しやすい幼児期に引き出す方法を学習し、指導力を身に付けている。身体表現には子どもたちを楽しませる表現力が求められる。学生の中には人前で発表することなどの苦手な学生が存在する。そのため、授業では表現力を身に付けるための実践的な授業展開を実施している。また、本学では学生の社会人基礎力を核とした教育が展開されており、本授業でも関連する社会人基礎力の能力要素を育成する指導を教示している。本稿では、授業の実践報告および学生による自己評価と身体表現の授業を通して社会人基礎力の育成について、授業評価アンケートと社会人基礎力自己評価アンケートを作成し調査した。調査結果については、授業のねらいや目的についての理解は得られた。表現力については、創作する上でグループ活動が適していることが示された。また、社会人基礎力については、グループ活動を通して仲間と協力して学習意欲を高めようとする実行力や、仲間の意見を素直に聞こうとする傾聴力の育成が示された。

キーワード

幼児 Infant ダンス Dance 身体表現 Physical expression 社会人基礎力 Basic skills of working people
保育士養成校 Nursery teacher training school

目 次

- 1 はじめに
- 2 調査方法
- 3 調査内容
- 4 授業計画全体の構成
- 5 調査結果と評価と考察
- 6 おわりに

1 はじめに

保育者に求められる資質には保育の基本的な知識や子どもと関わる技術が挙げられる。特に子どもの発達や保育に関わるスキルを磨くことが必要とされ

る。保育のスキルとは音楽や工作、言語表現、身体表現など一通りを身に付けることが重要である。本学の幼児と健康Ⅱの授業では、身体表現あそびを通して、人間の基本的要素である身体活動に必要なタ

イミシングやバランス感覚を体得しやすい幼児期に引き出す方法を学習し、指導力を身に付けている。身体表現には、子どもたちを楽しませる表現力が重要であり、保育の現場では保育者が堂々と表現することが求められる。学生の中には人前で発表することや、手遊びなど演技をすることが苦手な学生が存在する。そのため、授業の後半では表現力を身に付けるための実践的な授業展開を実施している。身体表現ではグループワークを中心に幼児ダンスを創作し発表することで表現力を身に付け、自信を持たせることを実践的に行った。また、本学では学生の社会人基礎力を核とした教育が展開されており、本授業でも関連する社会人基礎力の能力要素を育成する指導を教示している。明石ら(2018)は社会で必要とされている力は「社会人基礎力」(「前に踏み出す力」「考えぬく力」「チームで働く力」の3つの力と、それらを構成する12の能力要素からなるもの)だと言われている。幼児と健康Ⅱにおいて育成する能力とは、主体性・実行力・課題発見力・計画力・創造力・発信力・傾聴力・規律性とされている。この授業内容を踏まえて、チームワークやコミュニケーション力を得ることで主体的に取り組むことはもちろんのこと、傾聴力や創造力などが育成されると考えられる。本稿では、幼児と健康Ⅱの授業実践報告と身体表現の学習から実際に高められた社会人基礎力の能力要素を学生のアンケートおよび自己評価を基に明らかにする。

2 調査方法

2.1 被調査者

女子短期大学幼児教育学科1年生61名。なお記入漏れや欠損値は分析ごとに除外した。

(調査時1名欠席)

2.2 調査年月

令和3年11月

3 調査内容

3.1 授業評価および効果

授業評価の質問項目として、「毎回の授業の内容を明確に説明していた」、「授業準備はされていた」など11項目で構成されている。これらの質問に対して、「当てはまらない」から「当てはまる」までの5件法で回答を求めた。(表1)

3.2 社会人基礎力自己評価

自己評価の質問項目として、「仲間の意見や指示に頼らず、自分自身の考えも発言することができた」、「完成に向けて計画を立て、考える力がついた」など、社会人基礎力は7項目で構成されている。これらの質問に対して、「当てはまらない」から「当てはまる」までの5件法で回答を求めた。(表2)

3.3 授業評価および社会人基礎力自己評価および感想

授業評価および社会人基礎力自己評価および授業の感想を自由記述で回答を求めた。

(自由記述項目20～22)

3.4 分析方法

質問項目の回答の「当てはまらない」を1点、「やや当てはまらない」を2点、「どちらでもない」を3点、「やや当てはまる」を4点、「当てはまる」を5点として各質問項目の得点を算出した。(表1.2) 質問項目は以下の通りである。

3.5 質問項目

表1 授業評価および効果

1	毎回の授業の内容を明確に説明していた。
2	授業の開始・終了時間を守ろうとしていた。
3	授業準備はされていた。
4	教員の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすかった。
5	学生が質問や意見を言えるように配慮し、適切に対応していた。
6	学生の反応を確かめながら授業を進めていた。
7	私語等への対応により授業に集中できる環境、学びやすい雰囲気を作られていた。
8	授業に対する教員の熱意は感じられた。
9	授業を受けて専門的知識が十分に身についた。
10	この授業に刺激を受け、興味が持てた。
11	総合的に見て、この授業を受けて良かった。

表2 社会人基礎力自己評価

12	仲間の意見や指示に頼らず、自分自身の考えも発言することができた。(主体性)
13	グループワークでは自分の課題(苦手な点)を見つけることができた。(課題発見力)
14	完成に向けて計画を立て、考える力がついた。

	(計画力)
15	グループでは自分の意見や疑問を言えるようになった。 (発信力)
16	グループで協力して学ぼうとする力がついた。 (実行力)
17	仲間の意見を素直に聞くことができ、人との協調性が高まった。 (傾聴力)
18	問題解決のアイデアが出せるようになった。 (創造力)
19	この授業を受講するにあたって、社会人基礎力の能力が身についた。

(創作活動を対象とした社会人基礎力の質問を作成した)

- 20 特に身に付いた社会人基礎力とは？その効果について記述してください。
- 21 この授業を受けて自己評価をしてください。
(例) 表現力が身に付いた、指導方法が身に付いた等)
- 22 授業の感想、意見等を自由に記述してください。

4 授業計画全体の構成

4.1 授業内容とおよび計画

授業の前半はふれあい遊びや運動あそびを実施した。後半では表現力を養うために、グループ活動を主として行った。多くの子どものリズムダンスを習得し、ダンスの創作に関する知識や技術を理解し、子どもが楽しめる曲を課題曲とし、道具を使ったパラバルーンダンスの創作とリズムダンスの創作を実施した。パラバルーンダンスの創作活動とその成果の発表会、リズムダンスの創作活動とその成果の発表会を行った。授業内容は以下の通りである(表3)

表3 授業内容・計画

授業内容 15回	
1	オリエンテーション 授業における社会人基礎力について
2	個から集団のあそび①
3	個から集団のあそび②
4	運動あそび 鬼ごっこなど
5	運動あそび ボールを使用
6	運動遊び 子どものリズムダンス
7	パラバルーンダンス導入 グループ分け
8	パラバルーンダンス創作活動①
9	パラバルーンダンス創作活動②
10	パラバルーンダンス発表会(撮影)

11	パラバルーンダンス鑑賞会と振り返り
12	リズムダンス創作活動①
13	リズムダンス創作活動②
14	リズムダンス発表会(撮影)
15	リズムダンス鑑賞会 振り返り まとめ

(1) 導入と創作活動

まず初めに、パラバルーンダンス、リズムダンスの導入として、保育園や幼稚園で使用されている幼児ダンスを5~8曲指導し習得させる。各クラス3グループとし、6~7名のループ分けをするがこの場合、教員がグループ分けを行った。教員から課題曲を出し、グループ毎で協力をし合い創作活動を行った。

(2) グループの創作活動

パラバルーンダンスの場合、パラバルーンダンスの技法や基本を習得するために資料の配布、動画を視聴し、グループで調べながら創作に取りかかった。リズムダンスの場合はこれまでに習得したリズムダンスを参考に振り付けや、動き、隊形、表情を課題とし創作に取りかかった。

(3) 発表会とビデオ撮影

授業の前半は練習時間として、学生からどの程度の時間が必要か要望を聞き、後半に発表を行った。音響係や撮影係は発表以外のグループで割り当てて実施した。

4.2 授業の受講者

授業：幼児と健康Ⅱ 後期 必修

期間：2021年9月~12月

1A (水) 2限

1B (金) 1限

1C (金) 2限

受講者：幼児教育学科1年生ABCクラス62名

4.3 身体表現の学修のねらい

パラバルーンのねらいは以下の4点とした。

- ①音楽を聴きながらタイミングに合わせて動くことで、リズム感や表現力が身に付く。
- ②友達と協力し合うことで一体感を味わう。
- ③演技や遊びを通して、1枚の布を大人数でタイミングを合わせて動かすことで、仲間との協調性やコミュニケーション能力が育てられる。
- ④バルーンを形づくる動きにより、全身の筋力や柔

軟性が鍛えられる。

4.4 授業の様子

(1) パラバルーンダンス 課題曲：「勇気 100%」



写真①準備運動のリズムダンス



写真②構成について話し合う学生



写真③構成した動きを実践する



写真④グループで撮影した動画を確認する



写真⑤発表会



写真⑥学生によるグループ毎の音響と撮影



写真⑦グループノート

リズムダンスのねらいは以下の4点とした。

- ①子どもたちが踊れる、現代的なリズムにのって、リズムの取り方や動きを工夫したり、相手と対応したりして、全身でリズムをとらえて自由に踊る。
- ②まとまりのある動きを工夫して、仲間とリズムにのって踊ったり、互いに見せ合ったりして楽しむ。
- ③いろいろなリズムのダンスの特徴をとらえて、自由に踊る。
- ④気に入ったリズムのダンスを選んで友達と踊る。

（2）リズムダンス 課題曲：「学園天国」



写真⑧準備運動の幼児ダンス



写真⑨リズムダンスの構成と動きについての話し合い



写真⑩鏡を見て動きの確認と見直し



写真⑩発表会

4.5 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

- 主体性—自分のやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組む
- 実行力—積極的に行動し、自分の考えを行動に移し、成果をだす
- 課題発見力—自分のスキルを分析し、課題を見つけて対処する
- 創造力—アイデアを出し、チームで協力して実践する
- 発信力—相手の意見を理解し、自分の考えを発信する
- 傾聴力—相手の意見を正確に理解し、チームで協力し実践する
- 規律性—ルールやマナーを守る

5 調査結果と評価と考察

5.1 授業評価および効果について

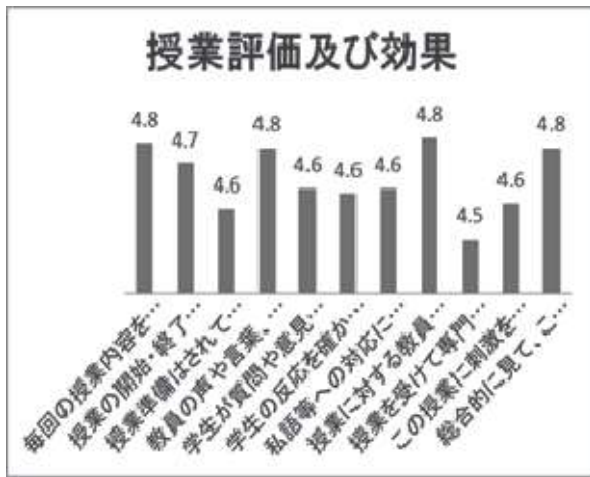


図1 授業評価および効果

授業評価および効果についてのアンケート結果は、5段階全ての項目が平均値を上回った。特に、授業の内容を明確に説明していた、「教員の声や言葉、話し方は明瞭で聞きやすかった」、「授業に対する教員の熱意は感じられた」、「総合的に見て、この授業を受けて良かった」、の4項目は高い評価を得た。(図1)

このような結果が得られたのは次のような理由が考えられる。

幼児と健康Ⅱでは、学生主体の授業展開を行っている。授業開始には本時の内容とねらい、計画および目標について説明をしている。また、常に学生の意見を取り入れ、学生が自主的に考えながら進めていくよう実施している。授業全般においては、特に創作活動をする上で授業環境が整っていることが影響されていると考えられる。

5.2 社会人基礎力の自己評価

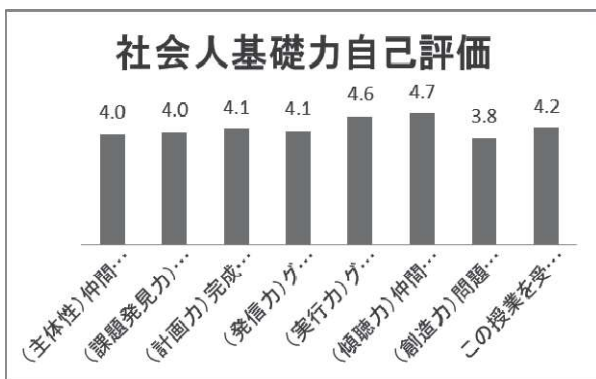


図2 社会人基礎力自己評価

社会人基礎力の自己評価についてのアンケート結

果は、5段階全ての項目が平均値を上回った。特に身についた基礎力は「(実行力) グループで協力して学ぼうとする力がついた」、「(傾聴力) 仲間の意見を素直に聞くことができた」、の2項目が高い評価を得た。(図2)

5.3 特に身についた社会人基礎力とその効果

参考資料として幾つかの記述を抜粋し、本文のまま記載する

(1) 主体性

- あまり自分の意見を言えるほうではなかったのですが、意見を言う事を恐れず発言することができ、グループの子も私についてきてくれました。
- 私自身まだまだ課題があるけれど、自分からやるとかそういう意識が持てた。
- 周りの人の意見に頼ってばかりだけど、自分の考えを持ち言えるようになった。
- 自分達でその日の社会人基礎力、体操などを考え実行することで自分から進んで自分の意見などを言えるようになった。
- グループ活動などでより、自分の考えを伝えられるようになった。

(2) 課題発見力

- 自分が何を苦手としているのかを動画をとってみたりして気づくことができた
- グループ活動をすることで自分にはもっていない力を他の子が持っていることを直に感じて自分にはこんなことが足りないなと考えることができた。
- グループで発表がよりよくなるために話し合い、改善点を見つける力が付きました。
- 実際にやってみて、うまくいかなかった所をなぜだめだったのかを考えるようにした。

(3) 計画力

- パラバルーンダンスの時に、完成に向けてダンスを考えた。
- 限られた時間の中で完成できるようになった。
- 提示された中から、順にすすめていくことができた。

(4) 発信力

- グループで自分の意見を発言できるようになった。
- 分からない振り付けがあれば周りの子に聞くことができた。
- 自分の意見をみんなに伝えて、分からないことはきちんと聞き発信力が身についた。
- 自分の考えや案をグループ内で発表できた。

（5）実行力

- ・パラバルーンダンスの時にみんなで意見を出し合って作品作りをした。
- ・ついてこれない子を沢山教えて一緒に頑張れた。
- ・皆の意見を聞き、協力することができた。
- ・協力すればするほど、いいものづくりだせる。
- ・皆で協力して1つのものを作るとか、意見を出し合って実行力を高めることができた。
- ・思ったこと、考えたことを実行することができた。

（6）傾聴力

- ・意見を受けとめ話し合うことができた。
- ・グループの人の意見を聞き、頭の中でイメージしたり、考えたりできた。
- ・人の話を最後まできちんと聞くことができた。
- ・人の意見を聞くことで相手の考えている意図をくみとることができる。
- ・相手の意見の中には参考になる良い部分がたくさんあるからそれを得ることができると思う。
- ・人の意見を聞いて自分とは違ったアイデアが出るから、知識とかも増えると思ったからです。
- ・人の話を聞くことは大事だと思った。

（7）創造力

- ・自分の意見だけでなく、他の人の意見も聴くことで新しいものがうまれたり、イメージを具体化しやすくなった。
- ・どうしたら改善できるのかを考えられた。
- ・多くのことを授業で経験することにより、アイデアがたくさん浮かぶようになりました。

社会人基礎力自己評価とその効果についてアンケート結果と自己評価から、学生が授業で身に付いた社会人基礎力は傾聴力および実行力が高い自己評価として示された。このような結果が得られたのは次のような理由が考えられる。

創作ダンスは仲間とのコミュニケーションを取ることが必要不可欠であり、作品を作り上げるにはグループ内での話し合いが余儀なくされる。学生たちがイメージするダンスを創作する中で意見やアイデアがでず行き詰まり、問題が生じる場面に陥ることがある。何度も話し合いを重ねながら問題の解決策を見出していき、その話し合いによる結果からまとまった意見を実行に移すことが実行力である。このように、身体表現の授業で高められた社会人基礎力は学生によっては様々ではあるが、目標に向けて粘り強く取り組む力や、仲間の意見を素直に聞き入

れる力を身に付けることができたと考えられる。また、目標達成に仲間と喜びを分かち合える充実感を味わうこともできると考えられる。

5.4 自由記述による授業の自己評価

参考資料として幾つかの記述を抜粋し、本文のまま記載する

- ・視点を変えるだけで自分が考えていた表現以外の表現の仕方があることがわかった。もう少し主体性をもって行えるようにする。
- ・自分の思っている、考えていることを、相手にうまく伝えるのが難しかった。→具体的な言葉を使う。
- ・改善点を見つけた時に、あきらめずに、成功するまで粘れた。
- ・人の意見を聞き、そのように動くことが多かったのですが、意見を言うと皆は耳をかたむけて聞いてくれたので勇気を出して自分の意見をしっかり言えて良かったです。
- ・子どもとの活動についての知識が身についた。
- ・指導方法が身に付き、子どもがより楽しめるような工夫を考える力が身に付きました。
- ・人前でも楽しく大きく表現する力が身に付きました。
- ・普段ダンスをすることがないので授業を通して表現力が身に付いたと思います。
- ・子どもたちにどのようなことを注意して指導したら良いかがわかり、指導方法が身に付いた。
- ・たくさん遊びを知ることができたから創造力が身について発想がふくらんだ。
- ・集団遊びの保育者の援助が身に付いた。
- ・わからない子に教えられたことで、どうしたら理解してもらえるのかの方法も知ることができました。
- ・コミュニケーション能力が上がった。
- ・考え方が柔軟になった。
- ・体操を子どもに教える時の子どもが分かりやすい振りの表現で説明することを学びました。
- ・見る側が楽しめるような表現・計画をすることができました。
- ・体を動かすと沢山の子の笑顔が見られることがわかった。
- ・人の意見を聞いて尊重する力が身に付いた。
- ・よりうまく物事を進めるためにはどうしたらいいのかを考えて行動にうつせるようになった。

- ・みんないろんな意見があるなかで、それをどうまとめるといいのかが分かるようになってきた。
- ・パラバルーンで表現することの楽しさを学ぶことができた。
- ・意識するポイントを言い合うなどして、指導方法が身に付いた。

授業評価および効果についてアンケート結果と学生の自己評価から、授業の内容やねらいおよび目的の理解が得られたこと、積極的に取り組もうとする姿勢が感じられた。また、表現することが苦手、他者とのコミュニケーションを取ることが苦手、人前で踊ったり演じることが恥ずかしいという学生が授業を通して、恥ずかしさや苦手意識を克服できたことにより創作する楽しさや完成させようとする意識が高まったと推察される。また、グループ活動を通して、意見を出し合うことで課題を出し、問題点を解決する力を得たと言える。最後に全員が笑顔で発表することができたことが保育者としての自信につながり、子どもと一緒に楽しみながら保育に取り組めると期待できる。

5.5 自由記述による授業の感想・意見

参考資料として幾つかの記述を抜粋し、本文のまま記載する

- ・グループでつくりあげる楽しさを知った反面、どう活かしたらいいのか意見をまとめるのが難しかった。
- ・最初は完成まで不安でしたが、グループ内での意見交換がされ、最後まであきらめないで取り組むことができて良かったです。パラバルーンまたやりたいです。
- ・毎回とってもたのしくて、周りの子どもと沢山コミュニケーションをとることができた。
- ・クラス全体など、もっと多くの人数で何かをつくりたい(ダンスとか)。
- ・曲を自分たちで選んでつくりたい。
- ・先生が組んでくれたから、グループ決めがなくてよかった。
- ・たくさんのお踊りや、みんなで協力することなどが身について今後活かせる。
- ・仲間と協力しあって、いろんな健康運動遊びについて身につくことができて良かった。
- ・運動することの楽しさを子ども達に伝えたいと思った。

- ・授業を受けて、自分の課題を知ることができた。
- ・季節ごとの踊りを知ることができるので保育に活用できて良いと思います。
- ・楽しく授業を受けることができました。
- ・グループで行うことで色々な意見が出て、工夫することができた。
- ・助け合いをすることの大切さや達成感を味わうことができた。
- ・パラバルーンがきれいな形になる度に、嬉しい気持ちになり、達成感があった。
- ・保育者として気をつけることを意識しながら進めることができ、勉強になりました。
- ・みんなの笑顔が見られたので良かったです。
- ・楽しみながらもいろいろな力をつけることができたのでよかったです。
- ・意見も言いやすい空気で授業をうけることができました。
- ・クラスみんなの仲も深まってみんなで楽しめてよかった。もっと周りを見て、1人の子がいなくてか1人の子ができないようにしたい。
- ・バルーンの技が意外と難しかった。

6 おわりに

1年生の必修である幼児と健康Ⅱは保育の知識や専門的知識を身に付けるための大切な授業の1つである。その中でも特に表現力を身に付けることを目的とし、実施してきた。表現力を身に付けるには、教員の指導力だけではなく、いかに学生に意欲を持たせ、積極的に取り組ませる授業の工夫と表現力を高める授業内容が望まれる。そのためには、まず、動くことの楽しさや面白さを知ってもらうことが大切である。楽しい、面白い、気持ち良いと感じることは、身体表現ではとても重要なことである。授業で楽しいと感じた体験が子ども達への積極的な保育につながると思われる。また、社会人基礎力については、自己評価から1年生という短い期間で理解を得ることは難しいことが読み取れる。社会人基礎力の育成には長期的に取り組む必要があるといえる。

引用文献

明石英子・橋村晴美(2018),「保育者養成に求められる「社会人基礎力」とは 一学生の意識調査から見える実習指導の課題一, 幼年教育 WEB ジャーナル 第1号, 21-28

参考文献

- 梶ちか子・長野真弓・松崎守利(2104),「ダンスの「発表」が気分・感情に及ぼす影響—体育専攻学生を対象とした検討—」, スポーツパフォーマンス研究 6, 143-160
- 宮下恭子(2012),「ダンス・身体表現の指導に関する研究—保育者への調査より—」, 東京成徳短期大学紀要 第 45 号
- 高原和子・瀧信子・矢野咲子・怡土ゆき絵・青木理子・小川鮎子・小松恵理子(2017),「保育者養成における 身体を使った表現(身体表現)指導の実態」, 福岡女学院大学紀要 第 18 号, 71-75
- 小笠原大輔(2015),「保育者養成における身体表現教材「おもしろダンス」に関する実践報告」, 湖北短気大学紀要 第 36 号, 25-38
- 細谷洋子・田村典子(2012)「創作ダンス授業における社会人基礎力育成についての一考察—問題解決学習の課題に着目して—」, 四国大学紀要 (A) 第 37 号 77-90
- 豊永洵子(2018)「養成期に身に付けたい「身体表現」の学修内容の検討」, 名古屋女子大学紀要第 64 号(人・社)451-463
- 宮下恭子(2012)「ダンス・身体表現の指導に関する研究—保育者への調査より—」東京成徳短期大学紀要 第 45 号 67-77

(原稿受理年月日: 2022 年 1 月 11 日)